

# 検証すべきは 規律偏重の生徒指導

文科省や県教委が進めてきた

日本共産党の大平喜信衆院議員は4月6日に開かれた文部科学委員会で、広島県府中町の中学3年男子生徒が昨年12月、間違った万引き記録に基づく進路指導の後に自死した事件を取り上げ、全容解明の徹底調査とともに、文科省などが進めてきた進路指導・生活指導を徹底的に検証すべきだと求めました。

## 遺族の意向に沿った 徹底的な調査、取り組み必要

大平議員は、「ご遺族の思いに心から寄り添い、その思いに応える姿勢で今後の取り組みは行わなければならない」と指摘。遺族が地元紙に寄せた手記で「なぜこのようなことが起こったのか明確に示されないまま前に進もうというのは順番が違う」と述べていることを紹介し、「校長や教員の責任追及に終わらせず、背景にある根本的な原因にまで踏み込んで明らかにすることが不可欠だ」と強調。町教委や県教委の対応についても調査し、生徒からも直接聞くことも必

要だとのべました。

馳浩文科相は「町教委、県教委も検証対象になる」と答弁。生



日本共産党

4月6日の文科委員会で質問する  
大平喜信衆院議員

動画を  
ご覧ください→



太平喜信衆院議員（比例・中国）が文科委員会で質問

徒からの聞き取りについては「配慮が必要」としながらも否定しませんでした。

大平氏は、自死の原因とみられる、3年間に一度でも万引きなどがあれば推薦しないという高校入試の推薦・専願基準について「たった一回の過ちで進路が断たれてしまうのが中学の進路指導なのか、見直すべきだ」と指摘。校長も反省を表明した「規律で押さえつける指導」は県教委や文科省が進めてきたものであり、「規律を何よりも重視する生徒指導が背景にあったのではないか、検証を行うべきだ」とただしました。

馳氏は、「管理型教育で上から押さえつけばいいと思っていたら大間違い」「全国的な進路指導・生徒指導の改善を進めていきたい」とのべました。